

2015年9月15日

北海道工場の建設について



代表取締役 松永政司

未利用天然資源である北海道の鮭白子の有効利用を目的として 21 年前東京に日生バイオ(株)を創設、鮭白子を原料とした機能性食品、化粧品、育毛剤、環境汚染物質除去フィルターなどを事業化してまいりました。11 年前、伊達市生まれの創業者 松永の北海道への強い思いから恵庭市に北海道研究所を新設、本社も恵庭市恵み野へ移転しました。

その思いをさらに発展させ、今年 9 月に旧南幌町立夕張太小学校を購入、直ちに改修工事を行い、来年 3 月末は初の北海道工場を完成させる予定です。この工場では、道産大麦若葉を原料とした「大麦若葉エキス末」を製造します。

冷涼な北海道での大麦若葉の栽培とそれを原料とする「大麦若葉エキス末」の商業生産は初の挑戦であり、安心・安全で美味しい味の健康食品づくりに期待がかけられています。

事業は H28 年度から本格的にスタートし、大麦若葉の栽培は南幌町の農家・農業法人に委託します。収穫された大麦若葉は、直ちに工場に搬入され、洗浄、搾汁、殺菌、乾燥の各工程を経て「エキス末」に精製され、健康食品などの原材料として販売します。自社商品のスティックタイプ「青汁」の展開のほか、OEM の受託も行う予定です。

実際の製造システムの稼働は、大麦若葉の生育具合を検分したうえで、最良の条件の下に行い、来年 7~8 月からを予定しています。平年ベース(H30 年)の製品生産量予想は 10t 以上となっています。

搾汁は搾汁効率の高い「スクリュープレス式の搾汁機」、乾燥は「スプレードライヤー」を導入する等、最新の機械設備を設置する計画で、小学校の改修や設備導入などを含め、総体で約 1 億 5 千万円超の投資を予定しています。尚、本事業は、南幌町が総務省から地域経済循環創造事業交付金を受け、その交付金に基づいて南幌町からの支援で実施します。

また、北海道での 11 年間の事業経験を踏まえ、北海道の食産業の発展のためには「食の六次産業化」と「高付加価値化」が極めて重要であり、そのためには中小零細企業のための「受託製造工場」が必須と痛感しており、新工場に導入する設備を用いて、例えば、搾汁機による野菜や果物の搾汁液の製造やスプレードライヤーによる各種素材の乾燥粉末の製造なども適正価格かつ使い勝手の良い条件で請け負う計画です。

近い将来、本工場で「青汁」製品のパッケージ製造や弊社の主力製品である核酸関連製品の製造も視野に入れ、北海道の一次産物の高付加価値化工場として大いに拡大発展させていく計画です。

これらの事業を成功裡に推進するためには、地元の南幌町との密接な連携、道庁、恵庭市はじめ近隣市町村等との協調関係を深め、地元 JA・食品産業協議会・道経済連合会・商工会議所など既存の経済、農業団体等との連携強化、既存取引関係先との一層の友好を図り、生産－製造－販売－物流面での「有機的なネットワーク」を活用した事業戦略を展開していく所存です。

以上

<北海道工場に関するお問い合わせ>

日生バイオ(株)北海道研究所

〒061-1374 恵庭市恵み野北 3 丁目 1-13

TEL:0123(37)5533

取締役・所長 林田 茂 hayashida@nisseibio.co.jp

企画開発担当 深野真季子 fukano@nisseibio.co.jp